彩の国 埼玉県
Saitama Cancer Center News

がんセンターだより

第 28 号
平成23年3月25日 発行
発 行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
田部井敏夫

基本理念 "唯惜命" 私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、十分な医療情報提供と患者さんの自己決定権を尊重し博愛と奉仕の精神で医療を行います。

埼玉県のマスコット
コバトン

目次

- 栄養サポートチーム（NST）の活動について …… 1
- 呼吸器グループ　キャンサーボードの活動 …… 2
- 第６病棟の紹介／放射線技術部の紹介 …… 3
- 機能性RNAを用いたがん治療戦略／第３５回"埼玉県民のためのがんの集い"を終えて …… 4

栄養サポートチーム（NST）の活動について

栄養サポートチーム
(Nutrition Support Team:NST)
消化器外科副部長
川島　吉之

こんにちは。栄養サポートチーム(NST)ディレクターの川島吉之です。みなさんはチーム医療をご存じでしょうか？今、全国の病院でチーム医療が行われています。褥瘡対策、感染対策、呼吸器リハビリ、嚥下障害対策、疼痛緩和ケアに加えて、NSTは栄養管理を通じて患者さんの闘病を支える医療チームです。栄養状態が悪いと「手術後の傷が治りにくい」、「感染症を起こしやすい」、「筋力が低下して日常生活が大変になる」などの問題があります。NST活動は、病気治療と並行して栄養状態を改善することで、入院期間の短縮、感染症発生の減少などの効果が報告されています。当センターのNSTを紹介いたします。

1）活動状況

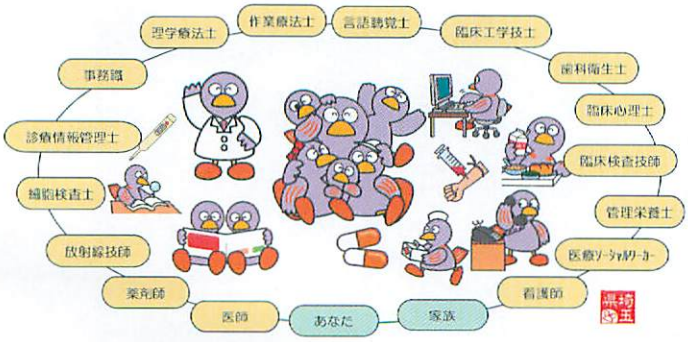
平成18年4月　NST委員会設立、活動開始
平成19年2月　日本静脈経腸栄養学会　NST稼動施設認定
平成22年12月　日本静脈経腸栄養学会　NST専門療法士教育施設認定

2）構成メンバー：多職種！！

病院長、副病院長、医師（TNT研修）・看護師・管理栄養士（NST専門療法士）・薬剤師・臨床検査技師・医療ソーシャルワーカー・事務職

3）活動の基本

栄養状態評価を通じて、①状態の悪い人を早めに見つける、②その原因を探る、③必要栄養量を計算する、④適切な栄養補給方法（食べる、腸へ注入する、点滴をするなど）を提案する。



～チーム医療～

4）実際の活動

①**栄養評価**：入院時に看護師が栄養状態を評価します。この評価をもとに管理栄養士が栄養状態に問題ある方に「栄養管理計画書」を作成します。

②**NST回診**：通常の栄養管理では改善が困難な患者さんについては、担当医師や看護師の依頼を受けて、NSTが直接病棟へ伺います。各メンバーがそれぞれの知識や技術を出し合って最良の方法を提案して栄養支援を行います。

③**NSTコンサルテーション**：医療スタッフが栄養管理に疑問をもった場合は、常にNST専門スタッフが電話で対応できるよう体制を整備しています。

④**NST勉強会・講習会**：「みんながNST」をモットーに、第2・4金曜日のランチタイムにはNSTメンバー向けの勉強会を、また、年3-4回の頻度で病院スタッフ向けに栄養に関する講演会を企画・運営し、栄養療法の啓発を行っています。

⑤**NST専門療法士教育**：平成22年度から教育施設認定を受け、NST活動を担う専門療法士の育成を行うことになりました。

5）がん専門病院におけるＮＳＴ活動

がんに対する外科手術、放射線治療、抗がん化学治療など、計画した治療が予定通りに達成でき、早期に退院できるように栄養面からサポートを行います。

がんセンターでの高度専門医療を下支えし、患者さんのQOL向上に貢献するよう、N（ナイスで）S（スマートな）T（チーム医療）を目指してがんばっています。

呼吸器グループ キャンサーボードの活動

呼吸器内科科長兼部長
酒井　洋

キャンサーボードは、がん患者さんの状態に応じた適切な治療を提供することを目的として、手術・放射線療法および化学療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師、画像診断・病理診断等を担当する医師やがん医療に携わる専門職等が職種を越えて集まり、治療方針等を意見交換・共有・確認するための検討会のことです。キャンサーボードの定期的な開催は、地域がん診療連携拠点病院の指定要件になっています。

呼吸器グループのキャンサーボードは、2008年10月6日から始まり、2011年2月28日で25回目を迎えました。主なテーマとしては、「３期非小細胞肺がんに対する化学放射線療法」、「肺原発悪性リンパ腫」、「肺がんに合併した肺結核」、「転移性肺腫瘍」、「縦隔腫瘍」、「胸壁腫瘍」、「新TNM分類」、「肺カルチノイド」、「胸腺腫」、「多発性内分泌腫瘍」、「悪性胸膜中皮腫」、「重複肺がん」、「腫瘍随伴症候群」などがありました。

外来の初診患者さんの中で、「内科の治療が必要なのか、それとも外科の治療が必要なのか」と判断に迷うようなケースについては、週1回の症例検討会にて治療方針を決めています。一方、通常行っている短いディスカッションではより深い検討を行うことができません。そこで月1回のキャンサーボードでは、胸部外科、呼吸器内科、病理、放射線科、血液内科、整形外科、腫瘍診断・予防科など関係する科が集まり、お互いの視点でディスカッションを行ない、ガイドラインに則った標準治療がきちんとできるよう心がけています。内容の充実を図るためにも、院内のあらゆる職種の方々や、院外の諸先生方に気軽にご参加いただければ幸いです。

第6病棟の紹介

第６病棟副師長
藤田　延江

皆様こんにちは。東廊下から昇る朝日と筑波山を臨み、西廊下より秩父連山と雄大な富士、沈む夕日に癒される素晴らしいロケーションを持つ、がんセンター本館最上階（５階）から第６病棟をご紹介いたします。第６病棟は全診療科が入院の対象で、有料個室26部屋と検診ベッド３床、まだ全国的にも数少ない前立腺癌の小線源治療や、甲状腺癌のヨード内服治療専用ベッドを２床有しています。看護師はベテランスタッフが多く幅広い知識を駆使し落ち着いた雰囲気の中、笑顔が絶えない明るい病棟です。

がんセンターの看護部では３年前より５Ｓ活動（①整理②整頓③清掃④清潔⑤しつけ）に取り組んでいますが、第６病棟も病棟目標に掲げて日々活動しています。その甲斐あって病院長、看護部長より「いつも整理整頓出来ていますね」とお褒めの言葉を頂きました。５Ｓ活動を継続し、皆様に安全な看護を提供出来ますよう努力しておりますので、がんセンターにお越しの際にはどうぞお立ち寄り下さい。スタッフ一同笑顔でお迎えいたします。

放射線技術部の紹介

放射線科技術部部長
久保田　正男

放射線技術部には常勤・非常勤等を含め24名の技師と助手１名のスタッフが在籍しております。業務的には、診断部門、核医学(RI)検査部門、放射線治療部門の3つに分けられます。

①診断部門：レントゲン撮影に加え、CT・MRI・一部のエコーなど、コンピュータ技術を利用して診断価値の高い画像情報を各診療科に提供できることを目指しております。

②核医学(RI)検査部門：体に投与した放射性同位元素をシンチカメラにより画像として検出します。

③放射線治療部門：放射線科医からの治療計画に従い、照射装置により正確な線量と照射方法でがん治療を行います。

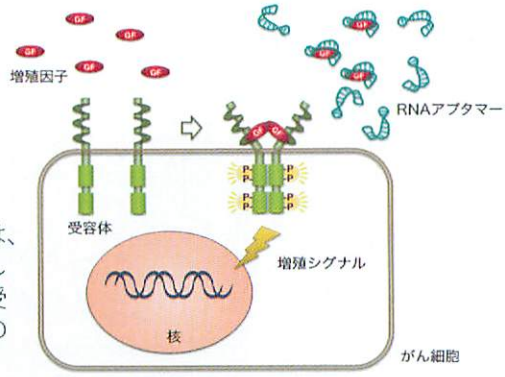
我々は、放射線を用いた検査や治療を行うため、非常に大型で精密な機械を操作したり、極小の繊細な作業まで多様な業務を取り扱います。また、放射線は一般的に危険というイメージがありますが、この放射線を上手に利用する技術、コントロールする技術、管理する技術の技術向上を目標とし、放射線技術部の基本方針である１.医療の安全に努める、２.患者中心の医療を心がける、３.チームで安全な医療を提供することの実現に日々努力しています。

機能性RNAを用いたがん治療戦略

ー小さなRNAを用いて、体にやさしい新しいがん治療法の開発を目指しています－

臨床腫瘍研究所
主席主幹
神津　知子

RNA（リボ核酸）は、私たちの体の細胞を構成する重要な物質です。遺伝情報の伝達、遺伝子発現の調節、タンパク質の産生など多彩な機能を持っています。このRNAのもつ多彩な機能や高分子マテリアルとしてのポテンシャルは医薬や産業への応用が期待されています。私たちは、RNAの試験管内人工進化（SELEX）技術を利用して、がんの標的分子に対する特異的な高親和性RNA分子（アプタマー）を作り出し、それらを用いた次世代のがん診断治療法の開発を目指しています。今回私たちは、細胞増殖因子(GF)に強力に結合するRNAアプタマーを取得しました。GFはホルモン依存性のがん、前立腺がん、乳がん、卵巣がんなどで多く産生されており、がん細胞自身の増殖促進のみならず、がんの周りの間質細胞に働きかけて、血管新生や転移を促進します。このアプタマーは試験管内では前立腺がん細胞の細胞増殖を抑えることがわかりました。そこで担がんモデルマウスを使ってこのアプタマーが生体内でも有効に機能するかどうかのテストを準備しています。もしこのアプタマーが生体内でがんの増殖や転移を抑えることができれば、標的特異的で副作用の少ない新しいがん治療薬となることが期待できます。



'RNAアプタマーは、増殖因子と結合して、増殖因子が受容体に結合するのを抑えます'

第35回 “埼玉県民のためのがんの集い”を終えて

がんセンター開設記念行事として毎年開催されている“埼玉県民のためのがんの集い”。今回は「ーがん患者・家族・そして社会とのきずなー“がんとともに社会でよりよく生きるための支援を考える”」というテーマで１２月５日(日)大宮ソニックシティ小ホールにて開催しました。開催にあたり例年に引き続き、埼玉県医師会、埼玉県健康づくり事業団の御後援をいただきました。

第１部のパネルディスカッションでは実際にがんを患いその治療を行った方、患者さんを支えた家族の方、がんを克服後、患者さんの支援にあたっていらっしゃる方などにその体験を語っていただきました。第２部では、がんセンター講堂でいつもコンサートを開いてくださっている、石井ファミリーによるボランティアコンサートが行われ、その素晴らしい演奏、美声に会場は酔いしれました。第３部では、当センターでがん治療を行った元チェッカーズの高杢禎彦さんによる「ガンが教えてくれた大切なもの」と題した講演が行われました。その壮絶な体験談に、会場は惹きこまれました。ご来場いただいた方々が講演者の話を熱心に聞いている姿からは県民の皆様のがん医療に関する関心の高さを実感しました。

がんの集いワーキンググループ